

平成18年度市場モニタリングテスト結果

機構の支援のもとで

「消費生活センターが実施した試買テスト」

NITEでは、製品の品質及び安全性を把握するとともに、消費生活センターのテスト技術向上に資するため、当機構の支援のもとで消費生活センターが商品テストを実施する制度(「消費生活センターテスト支援」)を設けています。

この制度により、平成18年度に実施したテーマ及び消費生活センターは次のとおりで、消費生活センターは消費者が商品を購入したり、安全に使用するために必要な情報を整理しています。

なお、テスト結果の詳細については各消費生活センターのホームページをご覧ください、または各消費生活センターにお問い合わせください。

過熱水蒸気式オープンレンジ

<北海道立消費生活センター>

従来のオープンレンジ機能に加え100℃の蒸気を更に加熱し約300℃の過熱水蒸気で調理するオープンレンジが各社から販売されており、従来のスチームを使用しないタイプに比べ、高温の水蒸気と高火力により余分な脂肪や塩分も落としヘルシーな調理ができると宣伝しています。そこで、安全性及び脱脂・減塩効果等についてテストを行いました。

テストの結果、調理中及び調理後のダイヤル、スタートボタン、取っ手等の操作部分の温度は低く問題はありませんでしたが、排気口、前面及び上面については、全銘柄とも温度が高くなるなどの結果がでています。

綿製品の洗濯方法による変化について

<京都府消費生活安全センター>

洗濯に関する苦情は依然として多く寄せられており、原因としては製品の素材や染色に問題があるもの、消費者の使用条件(洗濯方法など)や保管状況に問題があるもの、商業クリーニングの方法や条件に問題があるものなどさまざまです。そこで、消費者が洗濯をする際、色や風合い、装飾を損なわないためにはどのような洗濯方法がいいのかについて調査を行いました。

テストの結果、綿100%の試料(スウェットシャツ、カットソー等)は家庭洗濯10回後、洗剤の種類やネットの有無にかかわらず、胸幅及び後丈が収縮したなどの結果がでています。

スチームアイロン

< 福岡市消費生活センター >

スチームアイロンは、日常的に使用することの多い家電製品のひとつですが、使用時に温度が高くなることから火傷や火災などの危険性を伴う製品で、価格も高い製品から安い製品までさまざまです。そこで、スチームアイロンの性能、安全性、使用性等についてテストを行いました。

テストの結果、アイロンを前後に激しく動かしたり転倒させてもスチーム用の水は漏れることはありませんでしたが、取扱説明書の注意書きに従わず、使用終了時にタンクの水を排出しないまま次に使用した場合は、スチーム開始時及びショットスチーム1回目に水滴が混じって噴出する場合があるなどの結果がでています。